

第2群(活動報告)

管内社会福祉施設における感染症対策について－感染リスク区域別カラーマップの活用に向けた取組－

発表者(筆頭者)所属・氏名 仙台保健福祉事務所岩沼支所 技師 鳥居まりな
松野あやえ, 橋本朱里, 小野寺保

キーワード: 感染症予防普及啓発事業, 見える化, 業務効率化

I はじめに

感染症が流行している管内高齢者・障がい者施設(以下、「施設」という)の調査及び指導等において、施設職員から「日頃の清掃方法が適切か判断できずに悩んでいる」「消毒にお金や時間がかかる」等の相談が寄せられ、実際に清掃にかかる業務量や費用が必要以上に増大している状況が見受けられた。

そこで、施設における効率的かつ普遍的な感染症対策の構築及び強化を目的とし、感染リスク区域別カラーマップ(以下、「マップ」という)の活用に向けた取組を実施したので報告する。

II 方法

管内施設職員を対象に「感染症対策に係る正しい知識の普及啓発」と「現場で活用できる視覚資料の作成・提供」を二本柱とした取組を実施した。取組に当たり、感染症の流行を経験したことがある管内施設の一つを視覚資料作成のためのモデル施設として選定するとともに、管内医療機関の感染管理認定看護師にスーパーバイズを依頼した。

III 活動内容

■モデル施設のラウンド・マップ作成

- ・スーパーバイザーと保健所職員がモデル施設内の各区域をラウンドし、感染リスクを評価。洗浄を要する箇所と消毒を要する箇所の区別が曖昧になっている現状が明らかになった。
- ・ラウンド結果をもとに、洗浄・消毒箇所を色で区別したマップを作成した。

■感染症予防普及啓発事業

- ・管内施設職員を対象とした感染症予防対策セミナーにおいて、感染症対策について講義及び演習をおこない、参加者に正しい知識の普及啓発を図るとともに、前段のとおり作成したマップを提供し、活用方法を説明した。
- ・活動の一貫性を保持するためセミナー講師はスーパーバイザーと一致させ、マップを提供する前に「洗浄なくして消毒はない」という清掃方法の基本的な考え方を講義した。
- ・受講後アンケートでは、講義及び演習について全参加者36人が「理解できた」と回答し、マップについては「活用できる」とする回答が97%を占めた。

■効果測定

- ・セミナー参加者を対象にマップの活用状況や課題等について調査する。(平成31年2月から実施)

IV 考察

セミナー受講後アンケート結果から、参加者に感染症対策に係る正しい知識を普及啓発することができ、さらにセミナー内でマップの活用方法を説明することによって、より具体的な活用イメージを周知できたと考察する。また、マップを正しく活用するためには、洗浄及び消毒の目的や用途に係る基本的な知識が必要となるため、研修会や出前講座等と同時に普及啓発を図ったことは効果的であったと考える。

今後はマップの活用状況や課題等についてアンケート調査による効果測定を実施し、実践を担う施設職員等の意見を反映させながら、内容や仕様のブラッシュアップを図る。管内のニーズに応じて、高齢者・障がい者施設以外の社会福祉施設向けにマップを改変することも検討していきたい。

V おわりに

施設職員が適切な清掃方法を熟知することにより清掃にかかる業務量や費用が削減され、感染症対策の「効率性」向上が期待される。また、施設では感染症対策を熟知している職員が清掃に携わるとは限らない。マップが現場で活用されるためには、適切な清掃方法をだれもが直感的に理解できるような簡潔さを追究する必要がある、このことが感染症対策の「普遍性」に繋がると考える。

本活動は、保健所職員が管内施設等の感染症対策に係る技術的助言や指導を実施していく上で必要な知識の習得にも繋がり、地域の関係者(機関)と連携しながら、常に新たな見識を深めていくことの重要性を改めて認識した。